ARIMASS Letter

［Association for Risk Management System Studies］

危機管理システム研究学会　2007 年 3 月
第　28　号

危機管理システム研究学会第 7 回年次大会開催にあたって

第 7 回年次大会実行委員長
田和　淳一（損保協会）

危機管理システム研究学会第 7 回年次大会を 5 月 26 日(土)に神田の損保会館で開催することになりました。神田淡路町、駿河台周辺は戦災を免れたことから、昔からの町並みや有名なお店があります。池波正太郎が週に 1 度は通った神田「まつや（そば)」、夏目漱石の要望でできた松栄亭の「かき揚げ（ロールキャベツも有名)」、NHK の朝の連続テレビ小説でも使われた甘味処「竹むら」、そしてソバ好きには有名な「やぶそば」などがあります。こうした店が残っているのも、米軍が周辺に「湯島聖堂」と「ニコライ堂」があったため爆撃をしなかったと聞いたことがあります。

さて、今回の統一論題は「混迷の時代のリスクマネジメント―社会への還元」です。
生損保での保険金不払い問題、不二家の消費期限を過ぎた牛乳を使用してのシュークリーム等の出荷、日興コーディアル証券の粉飾決算、パロマ湯沸かし器 CO 中毒事故、鳥インフルエンザやノロウイルスの流行など、あいつで事件や事故が色々なところで発生しており、何か社会の仕組みが崩れつつあるように感じるのは、私 1 人ではないと思います。今回のテーマの選定にあたっては「現在は社会のいたるところで綻びが生じ、変わっていくためにも海図なき混迷の時代」との認識のもと、問題点の指摘だけにとどまらず研究成果を社会に還元し、また社会もそれを受け入れてより良い方向にいってくれることを願ったものです。研究発表テーマを見ると、その研究対象が広範囲に及んでおりそれだけ、社会の危機に何とか対応しよう、変えようという意欲を感じ、正に「混迷の時代」に成果を「社会に還元」できる大会になると期待しています。このように意義ある大会が、戦災にあわずに昔の風情の残るここ神田で開催されるのも何かの縁を感じます。会場となる損保会館は、JR ではお茶の水、秋葉原、神田の 3 駅と地下鉄では淡路町(丸の内線)、神田(銀座線)、新御茶ノ水（千代田線)、小川町（都営新宿線）と大変交通アクセスにも恵まれたところにあります。多くの会員の方が、参加されそして論議に加わられることが大会が成功する鍵だと思います。また、会員の皆様の交流の場として大会後の懇親会も「ホテル聚楽」で行うこととしております。

「混迷の時代」を切り開く主役は会員各位であり、多くの会員の参加をお願いいたします。

目　　　　次

第 7 回年次大会開催にあたって　･････････　1
第 7 回年次大会プログラム　････････　2
分科会報告　･･････････････　5
事務局からのお知らせ　･･････････････　10

危機管理システム研究学会第７回年次大会プログラム

開催場所　：　株式会社損保会館

期　　日　：　２００７年５月２６日（土）　受付開始　９：３０

統一テーマ　:「混迷の時代のリスクマネジメントー社会への還元」

◆　１０:００～１０：３０　会員総会　◆　全体進行司会：長濱　昭夫（桜美林大学）

【１０：３５～１７：００　研究発表報告･パネルディスカッション】

【10:35～12:15　研究発表･報告（セッション１）】座長：指田　朝久（東京海上日動リスクコンサルティング）

第１報告　10:35～11:00（報告 15 分、質疑応答 10 分）

テーマ：複雑系リスクマネジメント－リスクチェーンを基礎とする視座－

報告者：加藤 直樹（防衛大学校　防衛学群安全保障・危機管理教育センター）

第２報告　11:00～11:25（報告 15 分、質疑応答 10 分）

テーマ：事例研究－神戸製鋼所の公害監視データ改ざん事件の外部要因

報告者：河東 康一　（株式会社環境管理センター）

第３報告　11:25～11:50（報告 15 分、質疑応答 10 分）

テーマ: CSR(Corporate Social Responsibility)への対応はリスク管理の有効ツールになりうるか―金融機関の事例にみる日本の現状と課題―

報告者：笹子 善平（みずほ銀行）

第４報告　11:50～12:15（報告 15 分、質疑応答 10 分）

テーマ：重要社会インフラの情報システムに関わる脆弱性増加と企業の事業継続マネジメント

～レジリエンシー確保のための自助と共助の意思決定に関わる考察～

報告者：渡辺 研司(長岡技術科学大学大学院技術経営研究科)

１２：１５～１３：１５　休憩・昼食

ポスターセッション報告１：

テーマ：社会に開かれた企業行動でリスクマネジメントを進める

報告者：安藤　誠

ポスターセッション報告２：

テーマ: 医療訴訟からみた危機管理

報告者：坪内　暁子（順天堂大学医学部熱帯医学・寄生虫病学）

【１３：１５～１４：３０　研究発表・報告（セッション２）】座長：内田　英二（昭和大学）

第５報告　13:15～13:40　（報告 15 分、質疑応答 10 分）

テーマ：リコールリスクの日米比較　―リコール概念と制度の多義性について―

報告者：越山　健彦（財団法人製品安全協会）

第６報告　13:40～14:05　（報告 15 分、質疑応答 10 分）
テーマ：「医療行為の倫理性と法的規制」
―病気腎移植を行った医療行為の倫理性について－
報告者：藤谷　克己（東京医科歯科大学大学院）

第７報告　14:05～14:30　（報告 15 分、質疑応答 10 分）
テーマ：「外国為替証拠金取引に対する金融庁の危機管理に関する分析」
報告者：樋口　晴彦（警察大学校警察政策研究センター）

１４：３０～１５：００　分科会報告

リスクマネジメントシステム研究分科会：指田　朝久（同分科会主査）
リスク事例サロン分科会　：島田　公一（同分科会主査）
教育実践分科会　：後藤　和廣（同分科会主査）
メディカルリスクマネジメント分科会　：寺本　研一（同分科会主査）

１５：００～１５：１０　休憩

【１５：１０～１７：００　パネルディスカッション】
『不安社会における企業と市民の責任』
コーディネーター：上野　治男（法政大学大学院）

現代社会は、リスク社会とか不安社会と言われ、社会にはあまりに多くの不安が満ち溢れ、市民の日常生活を不安に陥れています。不安の原因や発生の形態は多岐にわたり、この世に本当に信じられるものなど存在するのだろうかというほどです。それを報道するマスコミ自身が信じられないのです。このような社会において企業の果たすべき責任は何か、市民はどのように行動したらよいのかについて自由討論を行います。パネリストは事前に決めず公募します。発言希望者は事前に発言要旨をレジメにして提出してください。その発言を聞き、続けて自由討論を予定しています。詳細は下記実施要綱（HP にも掲載）をご覧ください。皆様の積極的なご参加を期待しております。

１７：２０～１９：００　懇親会　ホテル聚楽　司会：島田　公一（あいおい基礎研究所）

【危機管理システム研究学会第７回年次大会パネルディスカッション実施要綱】

１５：１０～１７：００　開催場所　：　株式会社損保会館
『不安社会における企業と市民の責任』
コーディネーター：上野　治男（法政大学大学院）

一　趣旨

現代社会はリスク社会とか不安社会と言われ、社会にはあまりに多くの不安が溢れ、市民の日常生活を不安に陥れています。不安の原因は、食品や医薬品などの生活必需品、年金や医療などの老後生活、交通事故･犯罪･公害など日常の生活環境問題から、政治･行政･経済などの制度への不信など多岐に及んでいます。さらにまた、これらを報道するマスコミが信じられなくなるなど、不安の対象は広がる一方です。このようにして、今やこの世に信用できるものなど存在しないと思われるほど、社会生活のすべての領域に不安は広がりました。

それらの不安の原因を分析してみると、いずれもこの十数年間の社会の変化に遠因･近因を求めることができます。世の中の変化が速くかつ激しすぎるのです。しかも変化が特定の分野に発生しているのではなく、政治経済、社会、科学技術、文化などすべての分野に同時に発生していることです。これを市民生活の場から見ると、身の回りのすべて、とりわけ価値観や生活様式に大きな変化が急速に起こっていることです。それがもし日常生活に関係のない、あるいは特定の分野だけのことなら避けて通ることもできるでしょう。

すなわち、社会変化の広域性、無差別性、高速性、大規模化、同時多発性をこの変化の特徴として指摘できると思います。さらに過去の経験では理解できないところも問題です。最近の社会変化のこのような特色が市民の不安の根底にあるのです。このような広範な変化は歴史上過去に例を見ないといえましょう。

新聞やテレビを見ていますと、毎日のように次々と企業不祥事や商品トラブルの発生が報道され、日々利用する交通機関でいつ事故が起こるか分からない、身の回りの生活物資や業者の何を信じ、どこに気をつけたらよいのか、不安の種は尽きません。大会社だ、昔からある有名企業だからといって信用することなどできなくなりました。

何十年と長い間市民に親しまれ愛されてきた食品がある日突然製品問題で脚光を浴びるようになる。するとその会社に関し次々と不正が発覚する。しかもその多くは内部告発によって表面化するのです。まさにマスコミや行政が一点に集中して深堀りすれば際限なく不祥事が出てくるということです。それは企業に潜在していたものが一挙に噴き出しただけなのです。

企業不祥事が起こるつど、この会社は同業者の不祥事を他山の石として教訓を生かしてこなかったのかと酷評もされました。そんなことはありません。それなりの努力はしてきていたのです。にもかかわらず現場の膿を出し切ることはできず、不祥事になってしまいました。ということは、特定の企業だけのことでなく、かなりの企業に同じような状態が存在すると考えねばなりません。

このような認識に立って、この際、企業として市民として何をしたらよいのか、どのようにすれば不祥事を根絶できるのか、それを考えてみたいと思います。不祥事のつど数多の識者･評論家はいろいろと問題点を指摘し、対策案を教示されますが、企業の側の人に言わせると、本当にその通りすれば事故は防げるのか、自信喪失の状態にあります。何か妙案はあるのか、藁にもすがる思いで努力しているところも少なくありません。にもかかわらず、その会社を遠慮なく不祥事は襲うのです。

いまや不祥事に聖域、タブーはありません。すべての組織、制度、慣習、理論を不祥事は襲います。今までは正しいと思われていた業界慣習でも、新しい世の中では通用しないものもあります。談合、総会屋利益供与がその例です。このような認識の下、真に安心できる社会をつくるには、リスクマネジメントの見地からは何をなすべきなのかを検討してみたいと思います。

二　討論の方法

このテーマでは、本会の会員すべてが日常の研究活動の上で何らかの形で関与することが多いと思います。そのようなことから、今回のパネルディスカッションでは、パネリストを最初から特定することなく、フロアの全員がパネリストという前提で自由発言をしていただきたいと考えています。しかし、議論が拡散することを避け、限られた時間の中で意義ある議論ができるよう、事務局でとりあえず、三に掲げたような事項を検討項目として考えてみました。他にも検討すべき事項はあると思います。皆様からの問題提起をお願いします。

また内容の濃いものにするため発言希望者は事前にレジメを提出していただき、その人の発言を最初に聞き、続けて自由討論の形をとることにしました。ついては発言希望者を募集しますので奮って

応募されることを期待いたします。

三　検討項目

次のようなものを考えてみました。しかし、これに限りません。表題とその趣旨の範囲なら自由な発言を歓迎します。

1. 人はどのようなとき不安を感ずるのか。どのようにすれば恐怖感を取り除けるか。市民の不安を取り除くため、専門家に期待される役割は何か。不安社会の現実を見ると、市民の側に知らない、分からないがゆえの不安も少なくない。関係者間での知識のギャップが問題をこじらせているケースもある。このような一般市民の知識の高揚のため専門家の任務とは何か。
2. 企業不祥事のつど　本社が現場の実態を知らないことが問題となる。実態を掌握するための妙案はあるか。例えば、相次ぐ談合の連続で、企業はその防止に懸命な努力を重ねてきたという。会社方針として談合の根絶を誓った企業も少なくない。にもかかわらず根絶できないのはなぜか。
3. 企業の健全化のためには市民･消費者に期待されるものは大きい。消費者の質的向上を図るため、現在、消費者教育はどのように行われているか。
4. 不安解消のため企業は消費者との間でどのようなリスクコミュニケーションが期待されるか。
5. 相次ぐ医療過誤で関係者はその防止に必死であるが、事故事件は止むところを知らない。今、現場ではどのような対策を講じているか。その将来は明るいものか。
6. 近年の日本の現実を見ると、社会不安の増大はマスコミの論調とそれを鵜呑みにする視聴者に起因することも多々ある。そのためメディアリテラシーが問題になるが、それを効果的に推進するには妙案はあるか。

四　発言希望者へ

1. 発言時間は原則として一人５分とします。特にそれ以上の時間を必要とする人は事前に事務局と調整してください。
2. 発言希望者は事前に発言要旨を事務局に提出してください。同趣旨の発言がある場合は事務局において事前調整させていただきます。
3. 発言希望の申し出期限は5月7日(月)。The sooner the better.
4. 申し込み方法
   原則として次のアドレスへメールでお願いします。　uenoharuo@r08.itscom.net
5. 発言者はフロアの理解促進のため発言要旨等をパワーポイントとして事務局へ提出してください。
6. パワーポイントの提出先：前記メールアドレス　提出期限：5月14日(月)
7. ご不明の点はご遠慮なくメールで事務局にご照会ください。

分　科　会　報　告

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久（東京海上日動リスクコンサルティング）

リスクマネジメントシステム研究分科会では各ワーキンググループとも年度研究の最後のまとめを行っております。用語ＷＧは2月22日に会合を開催し、Guide73の3.4.4リスク軽減から3.4.11残留

リスクまでを研究しました。用語WGは本会合を持ってすべての用語についてひととおり研究を実施し区切りがついたことから一旦WGを終了することとします。規格比較WGは今まで3年間の研究調査を行った規格について、まとめとして総合比較を行っています。1.活動報告概要と各論、2.マトリックス的な位置づけ（2次元）分析、3.プロセス比較の3項目で比較しています。事例研究WGでは3月2日に会合を開催し、今年度実施した4件の研究について総括を行いました。COSOERM研究WGは3月12日に研究会を開催し、今年度に実施した研究会での質疑応答を中心に最終報告のまとめを行います。

2007年度に向けた活動の進め方については、年度あけにも意見交換を実施し方向性を議論する予定です。2007年度の活動方針は大会で御説明いたします。各WGの幹事や世話役の立候補をぜひ積極的に御願いいたしたいと思います。

【リスク事例サロン分科会】

（第25回・第26回リスク事例サロン分科会開催報告）

主査　島田　公一（あいおい基礎研究所）

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のとおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第25回・第26回分科会の報告をいたします。

＜第25回（2006年7月12日（水）午後6:30～8:30、於　東洋経済新報社 9階会議室）＞

１．参加者（１７名）

安藤、板倉、市原、太田、北澤、熊平、越山、佐藤、島田、関、出崎、辻、中山、山崎、横井、吉川、阿部（事務局）　※50音順・敬称略

２．テーマ

中国最新PL（製造物責任）事情　～失敗しないための中国進出日系企業のPL対策～

３．報告者　　出崎　克氏　（株式会社キャプテン）

４．報告内容骨子

報告者出崎氏より、以下の報告がありました。

〇中国一般情報

〇損害保険市場

・まだ外資に対して中国は閉鎖的である

・中国資本上位の会社でも採算とれていないところが多い

・国営物件のロスが高く、また募集にもお金がかかる

〇製造物責任法令に関する日中比較

・権利意識が高く訴訟社会

・中国は二審制で恐い部分もあり、中国に進出するときに注意する必要あり

・PL法（中華人民共和国製品品質法）は1993年9月施行、2000年9月改正施行

〇事例

・取扱説明書に英語と中国語で記載されているが、内容が一致しておらず負けた事例

・原告側と裁判官の関係が強かった事例

・中国側が認めている鑑定を使わないで負けた事例

・勝ってもマスコミにより買い控え運動（マスコミ対応重要）

〇中国進出企業のPL対策のポイント

・中国進出メーカーはＰＬ保険に入るべき、リスクを見て見ぬふりをしている企業多い
・取扱説明書に中国語記載されていないケースかなり多い
・事故があったらそれだけで間違いなく負ける
・組む相手を間違えると危険
・模造品対策、メーカーは対応せざるを得ない
・これからＰＬ問題が山のように出てくるのではないか、進出企業は十分な調査が必要

５．自由意見・情報交流内容

出崎氏からの報告後、飲食しながら参加者間での自由発言・情報交流が行われました。主な発言は次の通りです。

・ＰＬ訴訟は狙い撃ちあるか？　賠償額は何か事情で変わるのか？
・ディープポケットセオリーはアメリカと同様に中国にもあり得る
・企業側弁護士、原告側弁護士はどのようになっているか
・日本人を守ってくれる弁護士は数少ない
・米ＰＬ訴訟から日本は何も学んでないのか
・中国は権利最大義務最小とよく言われる
・進出して現地人雇うとき製品安全レベルを上げるとき苦労するという話聞く
・教育の前に技術を他へ漏らすということ考えねば、安定的な人材確保は大変
・中国人にとって日本企業は不人気らしい　給与低い？昇進しない？
・中国の人が中国進出は儲からないと言っている

＜第 26 回（2006 年 9 月 13 日（水）午後 6:30～8:30、於　東洋経済新報社 9 階会議室）＞

１．参加者（１７名）

市原、大久保、河東、熊平、小島（修）、齋藤、笹子、佐藤、島田、杉島、辻、樋口、眞崎、薮部、吉川、龍崎、阿部（事務局）　※50 音順・敬称略

２．テーマ

産業事故と環境モニタリングデータ改ざん事件に見る企業の危機管理

３．報告者　　河東　康一　氏　(株式会社環境管理センター)

４．報告内容骨子

報告者河東氏より、以下の報告がありました。

○多発する産業事故
○産業事故の動向
○企業は、人的要因が７６％と回答
○最近の環境データの改ざん
○データ改ざん事例とその要因
○参考：環境規制法令の施行状況
○事例研究（F 社）

調査結果、基準値超過･破損事故の原因、データ書き換えの原因、再発防止策、人的・管理的要因と防止策、6 号ボイラの運転状況、設備要因、安全文化に影響した背後要因、故障を招いた組織行動、トピックス

○まとめ

５．自由意見・情報交流内容

河東氏からの報告後、飲食しながら参加者間での自由発言・情報交流が行われました。主な発言

は次の通りです。

- 隠蔽･改ざんで守る利益は、コストだけの問題ではない、技術的･設備的要因があるのではないか、技術者のプライドや引きこもり体質によって隠蔽か
- 地元住民に対してかなり気にしている様子だが、住民説明会は 150 名とかなり制限されている、工場近辺では洗濯物に付くススや爆発について住民からの苦情多い
- 会社の体質が自由に物を言えなくさせているのではないか、現場の主任クラスに聞かないと本当のことはわからない、本社の人間ではダメだ、世間の風を経営者がわかっていない
- 工場内で放火がある時期頻発していた、職場規律がおかしくなっていたのではないか？
- 行政の立ち入り検査は一工場 15 分であり、まともに見れるわけがない、今の環境報告書も有識者が『よくやっている』程度のことを書いている
- パロマや雪印の場合、そこの商品は買わないという形で消費者のリアクションがあるが、Ｆ社は製鉄会社であり世間からのリアクションがない
- たまに起こる異常値はそれほど問題ではないというものが現場に定着している
- ある業界で問題が起こるとマニュアル作りが始まる、米の分厚いマニュアルの翻訳、それは意味のない作業で形式論に陥ってしまう、
- 一番良いことは仕事をすること、二番は仕事しないこと、悪いのは仕事をしているフリ、フリを見抜くのは内部告発しかない、性悪説に立たないとこれからはいけない
- データ改ざんについて　オペレーションとメンテナンスを分離することで対処することはできないか？一緒にすることが問題では？
- ＩＴでごまかすことができないようにできる
- 改ざんの内容は、①ペン浮かし②データ書き換え③基準値外は記録しない、Ｆ社はテレメータを作っているのでいくらでも改ざんは可能であった、とても悪質
- 臨機応変にガチガチとシンプルなものを使い分けるべき、イレギュラーなとき向けのマニュアルがあまりないようだ

メールアドレス登録・変更通知のお願い
本分科会の開催は開催の都度学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：寺本 研一（東京医科歯科大学）

今年度第 4 回分科会が以下の要領で開かれました。

2007 年 1 月 25 日午後 6 時 30 分—午後 8 時 30 分　場所：昭和大学 17 階会議室

出席者：寺本、大川、樋口、豊田、藤谷、板倉、野村、辻、土屋、辻内、坪内、内田

スピーカーは、樋口さんと土屋さん、それぞれのお話は、次のタイトルによるもので、パワーポイントによる説明とハードコピーが配布された。

樋口さん：社会保険庁の不適正事案　土屋さん：医療事故分析法の研究—「事故流れ図」を用いて—

本日から、メンバーに順天堂大学熱帯医学・寄生虫病学で助手をしておられる坪内暁子さんが参加されることになったので、最初に坪内さんを含めた出席者全員が自己紹介をした。

１．社会保険庁の不適正事案：　発表者　樋口先生

社会保険庁の不適正事案については、既に報道で行われているところであるが、社会保険料の納付率（すなわち、社会保険受給権者である国民から保険料を取立てる率）を 80%とする目標を設定

し、この目標を達成するという成果主義の下で社会保険庁の現場職員の間で不適正な処理が行われていた。低所得者層を免除処理することにより、納付対象の母集団を小さくし、その結果、納付率がまるという手法が取られた。民間の損保会社から社会保険庁長官となった旗振りは、民間の保険販売手法を取り入れ、長官自らがメールで檄を飛ばすというスタイルだった。マスコミを始めとする社会保険庁を取り巻く不信の渦の中で、なぜ不適正処理が発生したかを分析し、リーダーシップの重要性を指摘する。

２．医療事故分析法の研究―「事故流れ図」を用いて―：　発表者　土屋先生

昨年の医療の質安全学会で発表をしたもので、患者誤認の事案を題材にしている。放射線技術部門における医療事故は、いろいろな形で起きているが、実際にＴ病院で発生した事案は、造影剤を注射してはいけない患者さんに対して、誤認を原因として注射をしてしまったというもの。CT 検査の際に、廊下の待合で、造影剤の注射を受けることになっている患者がトイレに行っていた。そのときに、同じところで待っていた他の患者が類似名であることから誤認が発生した。従来のRMのアプローチからは、いくつかの事故対策ツールがあるが、Ｔ病院の事案においては、独自に、自分達の日常行っている業務の流れを図式化し、時間の流れとともに追いかけていく「時間分析法」を考えて、行ってみた。これにより、日常業務の流れと事故が起きた時の流れとが比較することができるというメリットがあり、エラーの原因を特定することができるという結論に達した。また、RMに通じていない初心者でも参加できる手法といえる。

次回の日程と場所：3月14日水曜日　午後6時30分から　昭和大学（旗の台）
発表者予定：　中村さん、坪内さん

第24回日本経営分析学会年次大会への参加ご案内

大会実行委員長　太田三郎（当学会常任理事）

第24回日本経営分析学会年次大会が5月12日（土）、10時30分より千葉商科大学で開催されます。本学会から統一論題「危機管理と経営分析」の報告者として斉藤淳氏（監事）、自由論題報告者として樋口晴彦氏（常任理事）が参加します。

日本経営分析学会は1984年4月1日に設立され、現在会員数が約600人を擁する学会です。日本学術会議に学術研究団体として登録され、日本経済学会連合にも加入が認められています。経営分析は伝統的な財務分析を基礎として成り立ち、それに会計学、経営学、ファイナンス、統計学など、隣接学問領域の成果を援用し発展してきました。企業経営、組織を科学する、実効性を重んじた学問領域といえます。今日、ますます複雑化し、重層化する社会現象を解明するには、個別的、断片的な学問領域だけでは困難となりつつあります。企業、組織に潜む問題の本質を解決するには、より学際的、共同的なアプローチが必要です。社会科学の進展、発展には学際的な研究が不可欠ですので、今回、本学会が日本経営分析学会年次大会で研究コラボレーションを行う意義はきわめて大きいといえます。本学会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。参加ご希望の会員の方は、予め学会事務局（阿部映二様）にお知らせください。なお、大会参加費として2,000円、懇親会費として4,000円が必要となります。

【編集後記】

桜の花もすぐ咲きそうな春の陽気です。

第7回年次大会にむけてのARIMASSレターとなりました。危機管理システム学会は、安全・安心な社会を目指して学際的な議論・活動を続け、社会への発信を続けてきています。学会ではリスクマネジメントや不祥事を研究し、安全・安心を議論していますが、しかし、社会が変革する中で、個人と組織、社会に不安感が蔓延し自信喪失感が漂っているとしたら・・・・その状況こそが学会の議論の対象となります。新入会員も増えてまいりました。学会総会では、危機管理やリスクマネジメントに関して、自信を取り戻せるようなディスカッションや御発言、御提言を期待しています。（中村陽子）

＜事務局からのお知らせ＞

1.分科会連絡先

教育実践分科会　主査：後藤和廣、TEL.03-3291-8921／Fax.3291-8930　e-mail:gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会　主査:指田朝久、TEL. 03-5288-6584(直)／Fax. 03-5288-6590　e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会　主査：島田公一、TEL.03-5423-1070／Fax.03-5423-1074　e-mail:ko-shimada@ioi-research.co.jp

メディカルリスクマネジメント分科会　主査：寺本　研一、TEL/FAX03-5803-5929　e-mail:teraken.srgl@med.tmd.ac.jp

2.新入会員紹介

氏名	所属	氏名	所属
安藤　生大	千葉科学大学	青木　孝	青山　孝法律事務所
小山　富士雄	東京大学	古山　徹	日経メディアマーケティング
浅原　富士夫	千葉科学大学	飯高　成美	楽天証券ホールディング㈱
木村　栄宏	千葉科学大学	渡邊　繁生	㈱プロネクサス
山本　洋信	アップライフシステム研究所	大柳　康司	専修大学
井端　和男	井端公認会計士事務所	横山　哲也	東映アニメーション㈱
星野　敏之	㈱桝徳	木村　充宏	㈱日経リサーチ
増田　政紀	㈱格付投資情報センター	大野　喜一	ピーアンドテクノサービス(有)

3.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行　危機管理システム研究学会　〒140-0013　東京都品川区南大井6-3-7
ｱｰﾊﾞﾝﾈｯﾄ南大井ビル　(株)リムライン内
TEL.　03-5753-0080　FAX.　03-5753-0086
e-mail：arimass@muh.biglobe.ne.jp
2007年3月20日 発 行　http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/
印刷　株式会社　文典堂　03－3762－0721